

新規事業評価調査書

事業名		久宝寺緑地整備事業
所在地		八尾市西久宝寺 他
事業概要	目的	久宝寺緑地は、昭和 16 年に服部、大泉、鶴見の各緑地とともに大阪都市計画緑地として計画決定された大阪四大緑地の一つである。大阪府公園基本構想においては「健康と生きがいを支える公園」として位置づけ、東大阪地域に比較的少ないプールや野球場、陸上競技場など府民だれもが利用できるスポーツ施設を中心に、樹林地、芝生広場、児童遊戯場などのレクリエーション施設も備えた広域公園として親しまれている。 しかし、周辺は宅地化の進展により人口密度が高くなり、また平成 7 年の阪神淡路大震災以降人々の災害への意識が高まったことから、当公園の未整備地を事業着手することにより、都市の貴重な空間を緑豊かな公園として拡大し、環境保全やレクリエーション機能の充実等を図るとともに、周辺住民の重要な広域避難地、後方支援活動拠点となる防災公園としての機能充実を行うものである。
	内容	・都市計画決定面積 48.1ha ・開設面積 38.4ha (H16.3 末) ・未整備地(都市計画法 55 条指定地) 9.7ha (新規事業認可予定面積 6.0ha) 主要な施設 風の広場、花の広場 児童遊戯場 シャクヤク園 野球場 テニスコート プール 陸上競技場 軟式野球場 展望広場 グランド 健康広場 ドングリの森等
	事業費	全体事業費 計画約 214.8 億円 認可予定区域事業費 約 66.9 億円 内用地費 計画約 149.0 億円 内用地費 約 57.9 億円 内建設費 計画約 65.8 億円 内建設費 約 9.0 億円 土地単価(約 8.1 万円/㎡) 工事単価(約 1.5 万円/㎡)
	維持管理費	約 247 百万円/年 (約 643 円/㎡・年)
	関連事業	
上位計画等の位置づけ	・大阪府公園基本構想 ・大阪府広域緑地計画 ・大阪府地域防災計画 ・八尾市地域防災計画	
優先度	当公園の所在する東大阪地域は、都市化の進展に伴い、高密度化や自然の減少などで都市環境は悪くなり、一人当たりの公園面積も非常に少ないことから、環境の保全、地域における緑の核として公園面積拡大が必要である。 広域避難地、後方支援活動拠点としての面積が不足しており、防災機能の充実と災害に強いまちづくりの観点から、公園面積の拡大を急いでいる。	
事業の進捗予定	事業段階ごとの進捗予定と効果	・昭和 46 年度 未開設区域(9.7ha)を都市計画法 55 条地に指定 ・平成 16 年度 事業認可取得に向けた準備 ・平成 17 年度 事業採択、事業認可取得、用地買収着手
	完成予定年	平成 23 年度(事業認可予定区域)

事業を巡る社会経済情勢	事業目的に関する諸状況	<p>都市環境の現状</p> <p>20 世紀に産業発展が生み出した公害と開発行為による自然の減少が急激に進んだ結果、完全な回復ができないまま、人々の健康への被害や有機化学物質による環境汚染、生態系への影響、地球温暖化など、自然環境や生活環境はもちろん地球規模での環境への影響が深刻な問題となっている。一刻も早く予防措置を講じ、環境優先の視点に立って、環境への負荷を一層低減させ、環境保全を図ることが必要となっている。</p> <p>近年の社会経済状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高密度化した都市、複雑な社会構造、特にバブル崩壊後の長引く経済不況や企業の倒産、リストラクチャー、競争社会の激化、核家族化や少子高齢化の進展といった状況は、都市に住む子どもから高齢者までほとんどの人々に大きなストレスや不安を与え、精神的にも肉体的にも緊張と疲労が増す生活にしている。 ・人の平均寿命は年々伸びているが、疾病率の増加や子ども達の体力低下、医療費の増加といった現状を見ると、医療によりカバーしているとも言え、真に健康で文化的な社会形成という点からは問題が多い。その一因として、身近にスポーツやレクリエーションを通じて、安全に安心して健康や体力の維持・増進を図れる場が少なくなっている状況がある。 <p>周辺の状況</p> <p>都市化の進展に伴い、当公園周辺の市街地でも機能性や合理性を迫及した都市構造へと変化した結果、住宅が密集し、まとまった緑地や田畑、空き地など、人間生活に欠かせない緑やオープンスペース等の自然が非常に少なくなっている。</p> <p>東大阪地域の公園整備状況</p> <p>府内でも東大阪地域は、人口密度が大阪市域に次いで高く、また一人当たりの都市公園面積は、大阪市域(3.26 ㎡/人)と並んでおり、府全域の平均値(4.86)よりも低く、全国平均(8.48)と比較しても 4 割弱と非常に低い状況にある。東大阪地域の中でも、特に市街化の進んでいる八尾市や東大阪市については、公園整備が急務である。</p> <p>災害時への対応</p> <p>阪神淡路大震災、東南海・南海地震の発生予測などから、西日本でも都市における防災機能の向上が求められ、当公園においても地域の防災拠点としての広域避難地、後方支援活動拠点として十分に機能するよう、公園面積の拡大、整備が求められている。</p>
	地元等の協力的体制	<p>Q s ガーデニングクラブ(園芸ボランティア)</p> <p>平成 12 年度より地域住民と協働して、効率的かつ魅力的な花壇形成と花苗育成を目指して、花壇の維持管理活動を行っている。</p> <p>ヒーリングガーデナー第 5 期養成講座(平成 16 年 1 月～12 月)</p> <p>高齢者や障害者が健常者と共に公園を利用し、楽しむことができるようにサポートするボランティアを、地域住民を対象に養成している。(現在 44 名 養成中)</p>

(事業名：久宝寺緑地整備事業)

事業効果の定量的分析	費用便益分析	具体的な便益内容	受益者	費用便益比	備考
		直接利用効果 健康・心理的な潤い・レクリエーション空間の提供 間接利用効果 都市環境維持・改善 都市景観の保全提供 都市防災機能の確保	公園利用者 周辺住民	$B / C = 2.24$ (小数点第二位) 便益総額 $B = 625.3$ 億円 総費用 $C = 278.7$ 億円	算出根拠 国土交通省都市・地域整備局公園緑地課監修「改訂大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」(H16.2)による。 都市計画決定区域で算出
	その他の指標(代替指標)				
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を創出することが、地球温暖化やヒートアイランド現象、微気象の緩和、大気浄化など、都市生活者にとって重要な環境の改善・保全を促進する。 ・公園整備により、地域の人々に関するおいや安らぎ、憩いや癒しの場を、また子ども達には遊び場を、高齢者には社会参加の場を提供できる。 ・非常時には、地震による火災の延焼防止や住民の避難地、災害復旧の拠点となるなど、府民を守り、被害の拡大を防ぐ。 			
	活力	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな空間に芝生広場やグラウンドなどのレクリエーション施設、回遊園路等を整備し、スポーツやジョギング、散歩、あるいは地域交流、環境学習などに利用できる場を提供することで、人々のストレスを解消し、心身の健康と活力を増進するとともに、地域住民のコミュニティ活動の活性化を促進する。 ・未整備地東側に隣接する寺内町と連携して、寺内町の景観と融和し、公園利用と町並み散歩に一体性を持たせた施設整備を行うことにより、観光利用を増やし、地域振興を促すなど地域活性化につなげる。 			
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした芝生広場や豊かな緑、野鳥や昆虫、草花や野草、寺内町の掘割をイメージした水路空間など、自然や地域の文化、歴史にふれ、楽しむことにより、心身のリフレッシュが図られる。 ・生物多様性の確保に資する良好な樹林地など緑豊かな空間を創出することで、緑のネットワークの拠点としての充実を図り、地域の核となる都市景観を形成する。 ・公園施設や空間の設計にユニバーサルデザインを導入することにより、高齢者や障害者などすべての人々が快適に利用できる。 			
	レクリエーション機能	心身の健康の回復・維持・増進や余暇時間の増大に対応し、サッカーやゲートボール、散歩やジョギングなどの動的レクリエーションの場、散歩や自然観賞、環境学習や休養などの静的レクリエーションの場、地域の交流や賑わいの場など、総合的なレクリエーションの場を提供する。			

自然環境等への影響と対策	<p>計画地は市街地にあり、田畑や倉庫、駐車場、空き地などが多い。</p> <p>生物多様性の確保に資する良好な樹林地や芝生地、親水空間など、自然とふれあえる水と緑豊かなオープンスペースとして整備することにより、現状よりも自然度の高い環境を積極的に創出する。</p>
代替案との比較検討	<p>< A 周辺への眺望を重視した案 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園へのアクセス性を考慮し、敷地南側にエントランスを配置 ・管理拠点となるパークセンターは利用者の利便性を高めるため、敷地南東側のエントランスに配置 ・既設陸上競技場と一体的利用が可能なグラウンドを敷地南西側に配置 ・敷地南東部には、寺内町からつながる既設水路を活用し、せせらぎ等の流れを配置 ・敷地北側には芝生で覆われた眺望の丘を配置、周辺には樹林を設ける <p>< B スポーツ利用を重視した案 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北側に現状において利用率が高く、不足気味である野球場を配置。 ・他の施設配置はA案と同様であるが、スポーツ利用が中心となるため、利便性を考慮し、パークセンターを南西部に配置。 ・既存水路を活用し、ポイント的に水辺空間を配置。 <p>< C 市民活動や日常的なレクリエーションを重視した案 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な施設配置はA案と同様とするが、周辺地域で既に行われている「水」「緑」「歴史」「文化」に関わる市民活動との連携を考慮し、寺内町の掘割をイメージした水路や緑に親しむ環境体験施設を配置。 ・日常的なレクリエーションに対応する芝生広場や遊具広場を配置。 <p>以上3案で施設内容や配置を検討した結果、できる限り多くの緑地がとれ、日常的利用に配慮した施設はもちろん、地域の歴史や文化にふれることができる水路や環境体験施設を配置したC案を選定した。ただし、事業費については3案ともほぼ同等の規模としている。</p>
その他特記すべき事項	<p>久宝寺緑地における防災公園としての機能の現状</p> <p>当公園は、八尾市地域防災計画により広域避難地に、また大阪府地域防災計画では後方支援活動拠点に指定されており、機能充実が求められている。</p> <p>広域避難地(避難面積 1㎡/人として)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定避難人口 124,175人 ・最大収容人員 81,300人 ・約4.3haの避難面積が不足している。 <p>後方支援活動拠点 大阪府</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最大で自衛隊3部隊が必要(1部隊約2ha) ・現在自衛隊駐屯基地として陸上競技場(2ha)、軟式野球場(1.5ha)が位置づけられている。 ・1部隊分(約2ha)の面積が不足している。